

香川労災病院長

藤原俊義氏

香川の医療最前線

142



◆ふじわら・としよし 1985年岡山大学医学部卒。米テキサス大MDアンダーソンがんセンター留学を経て、2010年4月から26年3月まで岡山大学消化器外科教授。26年4月から現職。日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医など。岡山市出身。65歳。

今や生涯で2人に1人は罹患するとされるがん。香川労災病院では患者の身体的負担を抑える「低侵襲治療」に注力しており、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」の活用拡大のほか、がん治療用ウイルス製剤「テロメライン」の導入を目指している。岡山大学名誉教授で、4月に同院の院長に就任した藤原俊義氏に聞いた。

治療を進めたい。同製剤は年内に一般診療で使える見通しだ。

— 今後はどのような活用を考えているか。 — 当院では主に泌尿器科や消化器外科で使っているが、対象疾患の拡大を

ンはどのような治療薬なのか。風邪の原因となるアデノウイルスを遺伝子改変し、がん細胞の増殖するようにした製剤。増殖したウイルスががん細胞を破壊し、さら

た。放射線治療のみの寛解が2割程度であること考えれば大きな成果だ。

— 岡山で長年開発を主導してきた。1991年から研究を開始。今年5月に製造販売が承認され、年内にも使用できる見込みだ。大学発の研究成果が実際の新薬として承認され、患者に届けられるケースは非常に珍しい。

まずはダヴィンチの特徴を。高精細な3次元画像を用いるが、対象疾患の拡大を

— 今後はどのような活用を考えているか。 — 当院では主に泌尿器科や消化器外科で使っているが、対象疾患の拡大を

ンはどのような治療薬なのか。風邪の原因となるアデノウイルスを遺伝子改変し、がん細胞の増殖するようにした製剤。増殖したウイルスががん細胞を破壊し、さら

た。放射線治療のみの寛解が2割程度であること考えれば大きな成果だ。

— 岡山で長年開発を主導してきた。1991年から研究を開始。今年5月に製造販売が承認され、年内にも使用できる見込みだ。大学発の研究成果が実際の新薬として承認され、患者に届けられるケースは非常に珍しい。

がんの低侵襲治療

ロボ、ウイルス製剤活用

最適組み合わせで寛解へ

院長就任に伴い力を入れた取り組みは。低侵襲治療の推進で、具体的には「ダヴィンチ」の活用拡大と、私自身が長年開発を主導してきたテロメラインを使った

見ながら操作でき、多関節機能や手ぶれ補正機能も備える。繊細な手術が可能で、合併症の減少などが期待できる。患者と手術を行う医師の双方にとってメリットの大きい

— 一方、テロメラインの患者のがんが消失し

に放射線治療の効果を高める働きもある。食道がん患者を対象にした試験では、同製剤と放射線治療を組み合わせると、半年で4割、1年半で半数

た。放射線治療のみの寛解が2割程度であること考えれば大きな成果だ。

— 岡山で長年開発を主導してきた。1991年から研究を開始。今年5月に製造販売が承認され、年内にも使用できる見込みだ。大学発の研究成果が実際の新薬として承認され、患者に届けられるケースは非常に珍しい。

院長就任に伴い力を入れた取り組みは。低侵襲治療の推進で、具体的には「ダヴィンチ」の活用拡大と、私自身が長年開発を主導してきたテロメラインを使った

見ながら操作でき、多関節機能や手ぶれ補正機能も備える。繊細な手術が可能で、合併症の減少などが期待できる。患者と手術を行う医師の双方にとってメリットの大きい

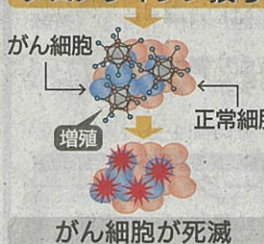
— 一方、テロメラインの患者のがんが消失し

に放射線治療の効果を高める働きもある。食道がん患者を対象にした試験では、同製剤と放射線治療を組み合わせると、半年で4割、1年半で半数

た。放射線治療のみの寛解が2割程度であること考えれば大きな成果だ。

— 岡山で長年開発を主導してきた。1991年から研究を開始。今年5月に製造販売が承認され、年内にも使用できる見込みだ。大学発の研究成果が実際の新薬として承認され、患者に届けられるケースは非常に珍しい。

テロメライン投与



テロメラインを投与したイメージ

— 地域の皆さんへメッセージを。高齢だからといって最初から治療を諦めず、まずは相談を。一人一人に合った治療法を提案し、地域医療に貢献していきたい。

■香川労災病院

がん診療、救急医療、地域連携を3本柱とした中讃地域の基幹病院。24時間365日体制で救急救命医療に対応するほか、高度ながん診療や地域医療連携を推進している。

所在地：丸亀市城東町3-3-1

電話：0877 (23) 3111

<https://www.kagawah.johas.go.jp>